

障害者虐待対策部会からの報告

1 【 概要 】

・第3回障害者虐待対策部会

日 時：平成26年2月18日（火） 15：00～17：30

場 所：障害者総合支援センター2階 作業室

出席者：宗澤部会長、奥田委員、於保委員、杉井委員、長岡委員、長澤委員、永島委員、
服部委員、古澤委員、向山委員

議 題：市内における障害者に対する虐待事例について
障害者虐待対応の実践を通じた課題について

2 【 内容 】

1 現状

【対応機関】

- （１）支援課（方針決定機関・機関連携の中心）
- （２）障害者生活支援センター（支援課と連携し、対応・6名の権利擁護支援員を配置）
- ⇒ （１）支援課及び（２）障害者生活支援センターについては、障害者虐待防止法における「市町村障害者虐待防止センター」の機能を有する
- （３）高齢・障害者権利擁護センター（スーパーバイズ・法人後見の実施）

【実績（平成24年度）】

	通報・相談件数	虐待認定件数
養護者による障害者虐待	46	22
障害者福祉施設従事者等による障害者虐待	9	4
使用者による障害者虐待	0	0
その他の障害者虐待	3	0
計	58	26

※詳細は、別紙のとおり

2 課題


- （１）技術的な課題
 - ・虐待の事実認定（介入方法・事実確認）の困難さ
 - ・障害者相談支援指針に基づく虐待対応の理解不足による連携の不備 他
- （２）運用的な課題
 - ・障害者相談支援指針の見直し
 - ・支援課・障害者生活支援センターの役割分担、権利擁護支援員の役割の整理
 - ・虐待対応のノウハウの蓄積の難しさ 他

（３）制度的な課題

- ・被虐待者の分離等の介入を行う者と虐待者（養護者）への支援を行う者が同一の支援者であることによる支援の困難さ、感情的なもつれ
- ・被虐待者を分離・緊急一時保護ができる場の不足
- ・分離による被虐待者を受け入れた施設にかかる大きな負担 他

３ 今後の方向性

- ・障害者虐待対応機関における実践の積み重ね・経験値のアップ
- ・障害者虐待事案の集積と共有
- ・「障害者相談支援指針」の改訂（支援課・障害者生活支援センターの役割、ネットワーク等）
- ・虐待者と被虐待者を分離するための緊急一時保護の場の確保



平成26年度の取組

- ・高齢・障害者権利擁護センター主催の権利擁護研修の実施
- ・障害者虐待事例集の作成
- ・「障害者相談支援指針」の改訂
- ・新規事業「障害者緊急一時保護事業」の実施
- ・第4期障害福祉計画の作成における「地域生活支援拠点等の整備」に関する検討

- ・被虐待者が知的障害者や精神障害者である場合
の事実確認・意向聴取、判断の困難さ
 - ・虐待が疑われている者に対する事実確認の方法
 - ・性的虐待に対する事実確認、介入の困難さ
 - ・障害者施設での虐待対応における事実確認の方法、支援の困難さ
- ・虐待対応にノウハウの蓄積の難しさ(他区と事例や課題を共有する機会が少ないことによる)

(4) 障害者相談支援指針(障害者虐待対応マニュアル)の課題、改善点、追加事項

- ・虐待対応に係るフローチャートの見直し
- ・虐待通報から対応までの目安となる時間の明示
- ・各種チェックシートの活用方法に関する研修等
- ・虐待・差別受付票の様式
- ・事例と虐待対応フローチャートをリンクさせたかたちでの事例紹介の追加
- ・虐待対応の「終結」へ向けた判断基準の追加
- ・市管轄外の施設における虐待事案への対応の追加

(実践、権利擁護研修等)・困難事案の事例検討、振り返り

緊急一時保護をする専門的な施設(障害だけでなく、高齢も、DV)

- ・関係機関への研修